

数々の人との出会いが、人生を動かしてきました

親子二代で専修大学を卒業し、一時期、共に校友会の活動に参加していた中墓英樹さん。大学卒業後は京葉銀行へ進み、関連会社の取締役を務めている中墓さんは、これまでどのように人生を歩んできたのか。また、これからどんなふうに歩んでいこうと考えているのか。おうかがいしました。



中墓英樹さん（昭60・商業）
株式会社京葉銀保証サービス 取締役

なかだい ひでき●1962（昭和37）年生まれ。千葉県出身。専修大学商学部商業学科卒業。千葉相互銀行（現、京葉銀行）入行。八街支店にてキャリアをスタートし、酒々井支店で支店長代理、2度目の八街支店で次長、続く矢切支店で支店長に。2017年7月より現職。

数十年ぶりにサークルの部室へ

2年くらい前でしたか、ホームカミングデーに専修大学の生田校舎へいったとき、ふと昔が懐かしくなりましたね。大学時代に所属していた旅行サークルの部室へ行ってみたいんです。そして、ありましたよ。だいぶん汚くなっていましたけどね。

当時は、結構真面目に活動していましたが、もともと旅行が好きだったので、サークルでは旅行先でアンケートをとったりしながら調査して、その分析結果を文化祭（鳳祭）で発表していたものです。知床半島や倉敷など、

いろいろ行きました。倉敷では、アンケートした女性と駅で再会したこともあり。残念ながらロマンスは始まりませんでしたけどね（笑）。

勉学のほうは、あまり良い学生とはいえませんでした。武田昌之先生の保険のゼミをとっていましたが、授業の内容よりも、そこで仲良くなった仲間たちとの思い出のほうが、すぐ頭に浮かんできます。遊びが中心ですので、ここで披露するような思い出ではありませんよ。

就職を意識する時期になると、周りとの進路の話など

するようになりました。私は地元で働きたいという思いが強かったので、就職先も公務員か、千葉にある地銀を中心に回ろうと早いタイミングで決めていました。中でも叔父が働いていた千葉相互銀行にもっとも親しみを感じたのが、就職を決めた理由の一つです。入行後まもなく、後悔することになったのですが。

お客様の役に立てる喜びが仕事の原動力

私が社会へ出たのは、バブル経済真ただ中の頃でした。世の中は何か熱気にうなされているような雰囲気、銀行は非常に忙しい日々が続いていました。毎日22時～23時くらいまで働いて、それから同僚や先輩方と飲みに繰り出していたものです。自宅に帰るのは、深夜2時か3時頃。そこから数時間寝ただけで出勤することを繰り返していました。自宅には、ほとんど寝に帰るだけでしたね。

入行1年目は、預金課に配属され、2年目に融資課、3年目になってようやく外回りに出るというのが、当時のキャリアパスでしたが、覚えることが



アメリカ人ボーイスカウト隊員と自宅で夕食会（真ん中奥が亡き父 祐三さん〔昭34・法律〕）



出身高校そばの支店に勤務した時の行員のみなさん



銀行同期たちとのゴルフプレー前に

山のようにあり、1年目で「本当に務まるのか」と悩みました。実は、公務員へ転職しようかと、公務員試験も受けたんです。仕事が忙しく勉強する時間など取れませんでした。通りませんでした。ただ、何かもやもやとしたものは、その後しばらく抱え続けていたように思います。

銀行マンになって良かったと思えるようになったのは、やはりお客様のお役に立てたという実感を得てからです。「ありがとう」といわれると嬉しいものです。そうして関係のできたお客様を訪問して、さまざまな話を聞くのも楽しみの一つでした。メーカーのこと、サービスのこと、その業界にいないと知ることのできない情報を耳にできるのは、単純に好奇心を満たしてくれました。

銀行は基本的に3年ほどで異動しますが、それでも人のつながりを感じられることが多々あります。新入社員として必死に日々を過ごしていた八街支店に10年以上経ったとき次長として戻ったら、昔のお客様が「出世したね」と迎えてくれました。地銀の仕事は、最終的には人とつながっているかが、とても重要です。金利を有利に設定するには限界があるし、都銀のようなス

ケールメリットも出せません。そうになると、どれだけお客様のことを理解して、寄り添った提案やお付き合いができるかが大切になってくるからです。杓子定規にやっているだけでは、お客様がいなくなってしまう——そこが面白さにもつながっているのだと、キャリアを重ねるに従ってわかってきたように思います。

父と一緒に支部総会へ

人とのつながりというと、校友の紹介で融資がまとまったこともありました。融資先企業の経営層にパイプがあった方で、つないでくださったのです。実は、父も専大卒で校友会活動に一生懸命取り組んでいました。その活動を通じて父と親しくしていた方も私も知り合うことになり、父が亡くなった今もお付き合いさせていただいています。融資でお世話になったのは、その方の同級生でした。

不思議なもので、20～30代は考えもしなかったのですが、40歳を超えた頃から、専大時代がとても懐かしく思えるようになってきました。あの頃の仲間たちはどうしているのだろう。専大という共通の話題を持つ人と話す機会を持っていただろうか。そんな思いか

ら千葉県支部連合会の総会に参加するようになりました。父も嬉しかったのかもしれませんが。いろいろな方を紹介してくれたものでした。今では、私も支部活動のお手伝いをするようになっています。そして、もっと若い人にも参加してもらえないかと思うようにも。

これまでを振り返ってみると、人との出会いが自分の人生を動かしてきたという実感があります。専大を選んだのも父が専大卒だったことが少なからず影響していますし、京葉銀行に就職したのも叔父の存在があったから。銀行マンを続けてこれたのも、多くのお客様や同僚たちとのつながりがあったからです。校友活動を通じて、新しいつながりが生まれ、今新たな楽しみを見出しています。こういう大切なつながりの一つが同窓生であり、校友会の活動に参加することで、その機会をつくれるのだということを若者たちにも多く知ってほしい。最近、その思いが強くなってきているのです。

えっ、これからですか？ 父から継いだゴルフ練習場の経営にも力を入れていきたいし、退職したら実家を活用して古民家風の飲食店を開いてみようとも思っています。そして、校友会の活動も続けていくつもりです。